

(一社) 世界文化遺産地域連携会議 2024 総会議事録

2024年9月12日 13:00ー14:30 リモート開催(本部:京都市役所「正庁の間」):敬称略

参加社員

【北海道・北東北の縄文遺跡群】 つがる市・弘前市・外ヶ浜町・七戸町・一戸町・北秋田市・

【平泉】 平泉町

【日光の社寺】日光市

【富岡製紙場と絹産業遺産群】富岡市・藤岡市・下仁田町

【国立西洋美術館】台東区

【白川郷五箇山】南砺市

【富士山】富士吉田市

【紀伊山地の霊場と参詣道】東紀州地域振興公社・吉野町・高野町・田辺市

【古都京都】京都市・宇治市

【百舌鳥古市古墳群】堺市

【姫路城】姫路市

【古都奈良】奈良市

【法隆寺】斑鳩町

【石見銀山】大田市

【原爆ドーム】広島市

【厳島神社】廿日市市

【明治日本の産業革命遺産】釜石市・荻市・中間市・佐賀市・宇城・鹿児島市

【沖ノ島・宗像】福津市・宗像市

【潜伏キリシタン】長崎市・佐世保市・平戸市・五島市・南島原市

【琉球王国】うるま市

【民間出席者】 熊倉(理事)・大社(理事)・後藤(理事)・島川(理事)・井戸(理事)

入江田・内山・大國・大山・岡井・久保・上山・小泉・塩見・須藤・多田稔・辰巳・田中俊・長南・土居・中野・中山栄・滑田・野添・野々村・平井・福井・宮澤・皆川・宗田・八重樫・山上

【委任状提出者】青森市・鹿角市・伊勢崎市・富士宮市・身延町・山中湖村・裾野市・御殿場市・
静岡市・富士市・小山町・白川村・白浜町・天草市・那覇市・南城市・中城村・朝廣・石丸・植木・
上野・内海・大窪・小野寺・片上・川崎・木谷・久遠・小池・佐滝・城之内・高橋一・高橋史・多田
み・田中恭・谷・富井・中村・浜野・花井・三島・村田・矢野・吉永

(12:56 2023年度制作の動画「厳島神社・原爆ドーム×原爆の日」配信)

13:00(開会)

お世話役・島川

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、お集まり下さいまして有難うございます。

一般社団法人、世界文化遺産地域連携会議、お世話役の一人、神奈川大学の島川でございます。

本日はZOOM会議の本部を京都市役所内の「正庁(せいちょう)の間」に置かせていただき、松井市長・井戸さん・大社さん・岡井さんとともに皆様にお目にかかっております。

それではこれから2024年度の会の総会を始めさせていただきたいと存じます。

まず、本日ご参加者いただいている社員数は本日朝現在で20遺産41市町村と民間メンバー29名の合計70、事前に委任状を頂戴したのが44の合計114社員でございます。社員総数139(官65・民74)に対しまして、定款11条の「過半数」と言う基準を満たしておりますので、本日の総会は無効に成立いたします。

まず冒頭、先ごろ新しく世界遺産登録されました、佐渡市さんが会のメンバーに加わられることになりました。本日は残念ながら議会と重なってしまわれたようで、ご参加いただけてないんですけれども、まずこのことを皆さんにご報告させていただきます。

定款の16条により、佐渡市の渡辺市長さんには会の理事をお務めいただくことになります。

それでは議事に先がけまして、京都市の松井市長より、一言ご挨拶をお願いいたします。

松井(京都市長)

こんにちは、京都市長の松井孝治でございます。

前任の門川大作市長が大変お世話になりました。有難うございました。

私はこの2月から京都市長に就任させていただきました。本日は世界文化遺産地域連携会議の令和6年年度総会開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

この会議は平成23年の設立以来、私の前任である門川前京都市長が代表理事を務めておられて、本日私は門川前市長の後任の京都市長としてご挨拶させていただきます。

人類の歴史によって生み出された世界文化遺産というのは、現代を生きる我々が、現代人が過去から引き継いで未来への、未来の世代にしっかりと次の世代に引き継ぎ、そして磨き上げていかなければいけない人類共通の宝物だと思っております。

お世話役の井戸さんほかの皆さん、あるいは今日も司会進行を務めていただいる島川先生はじめとする方々に大変お世話になっております。心から感謝を申し上げます。

今年7月にニューデリーで開催されたユネスコ世界遺産委員会で、「佐渡島の金山」が登録が決定されて、現在国内には21の世界文化遺産が存在することになるわけであります。

本市でも「古都京都の文化財」が世界文化遺産に登録されてから、今年でちょうど30年の節目になっておりまして、9月頭から元離宮二条城の本丸御殿の保存修理工事を終え、18年ぶりに一般公開をすることができております。

保存にかかる費用の問題、あるいはインバウンドが特に京都などは一部のエリアで集中しているというような観光課題をはじめとして、世界文化遺産を取りまく課題はとても多くてですね、この会議で各都市が連携をして課題解決、そして未来に向けて世界文化遺産をいかに継承するかについて知見を共有するというのは非常に重要なことだと思っております。

他方で、この連携会議の組織ですね、これがちょうど設立後10年あまり経っておりまして、この会議を今後も持続可能なものにどのようにしていくのかということで、改めてその設立趣旨、平成23年の設立趣旨も踏まえていただきながら、活動や体制のあり方は一度お考えいただくべき時期ではないかなと思っております。

本日はオンラインでの総会となりましたが、もちろん今年度の事業というのはいろいろあろうと思いますが、今後の世界遺産サミットも開催なども含め、また会員の皆様の交流促進とそして持続的な会議の運営に向けてどのような組織にしていくのかも含めまして、会員の皆様において有意義な意見交換がなされることを私としては期待させていただいております。

ちょっと公務の関係で私はここで失礼をいたしますが、この京都市役所・正庁の間をお使いいただきまして、この世界文化遺産を抱える地域の連携の会議が、本日実りある結果をもたらしますよう心からお祈りをいたしております。

どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

島川（お世話役）

松井市長どうも有難うございました。

松井市長は公務の関係でこれでご退席されます。本当にありがとうございました。

では、ここからは私が進行役を務めさせていただきます。

井戸さん、議案1につきご説明願います

井戸(事務局長)

こんにちは、事務局の井戸でございます。

議案につき私の方からご説明させていただきます。

(画面共有) PP2

(議案1説明)

議案その1です。今年は2年に一度の役員改選期にあたっております。

冒頭、あらためて会の定款の関係部分をおさらいしておきますと、まず16条に「当法人に次の役員を置く 1 理事:世界遺産を持つ市町村長および民間人若干名、2 代表理事1名」とあり、17条には「1 理事の任期は選任後2年以内の最終の事業年度に関する定時社員総会の時までとし、再任を妨げない 2 理事が辞任等により定員を欠くに至った場合には、新たに選任された者が就任するまではその職務を行う権利義務を有する」とあります。

まず、代表理事につきましては長年会を率いて下さった門川さんが2月に京都市長を勇退されました。

代表理事につきましては定款の19条に「1 当法人は代表理事1名を置き、理事の互選によって定める 2 代表理事は当法人を代表し、当法人の業務を統括する」とあります。また定款上に副代表理事や顧問に関する規定は定められていないこともあり、門川さんにご勇退直前にお目にかかり、感謝を申し上げ最後のご指示を仰ぐとともに、新しい代表理事についてのご意見を伺い、新しい方が決まるまでは門川さんが会の責任者ということでお願いしますね、という点について念押しさせていただいた次第です。

それで、先ほどご挨拶いただいた松井市長にお引き受けいただきたいということをお願いに上がりました。松井市長からは「副代表など別の立場としての協力なら可能かも知れないが活動、とりわけ国への要望活動や事務局の持続性などの面で様々な課題がある中、責任をもって法人格ある会を運営して行くことを、あまり軽々しくお受けしてはいけないのではないか」また

「同じ市が代表という役割を担っていくのが恒例になってしまうのは、会として必ずしも好ましくないことだとも思うので、皆さんで再度議論されみてはどうか」といった趣旨のお考えを持たれておりました。それを押してまでお願いすることはできず、保留という形で、その後、この件につき、門川前代表理事とも再度相談をしているというのがこの間の経過でございます。

今後どうしていくのがいいのかにつきまして、本日のこの場、またそれ以降の期間も含めて、皆様方からのご意見を頂戴できればと考えております。

次に副代表理事につきましてはこれも「お願いしたい」という表現にしているのですが、これまでの5名、粉川日光市長・仲川奈良市長・中西斑鳩町長・清元姫路市長・松井広島市長に再任をお願いするとともに、田中南砺市長にご就任をいただき、加えて地域バランスや遺産数にも配慮した形で今後の体制についても議論して行ければと考えております。

会の活動も14年目となり遺産数や会員数も当初から倍増しておりますので、発足時の2011年段階の、どちらかというと関西や中国地方というか、すでにその時点で登録されていた西側中心の遺産が全体を引っ張っていくというだけではなく、例えば21遺産それぞれから副代表理事を出していただいて、トップどうしに相互にも日常的に意思疎通いただきながら、会を運営していくような方向が望ましいのではないかと考えられる所です。

本日はぜひこうした点についても、皆様からの忌憚ないご意見を頂戴できればと考えております。

なお、顧問については松浦晃一郎・元ユネスコ事務局長、理事・監事については各市町村長様はじめとする現行の皆様、また寺田監事に継続をお願いするとともに、新任の民間理事としてNPO 日光門前まちづくり理事長の岡井さん。岡井さんには事務局次長も兼務いただく形でのご協力をお願いできればと考えています。加えて大社理事、本日は少し遅れてこの本部に駆けつけて下さることになっていますが、大社理事には財政面での強化につき、お力をお借りしたいと考えています。

ご提案のほうは以上です。何かご意見ご質問がある方はお手元の挙手ボタンを押してご発言いただければと思います。いかがでしょうか？

本日、すべてに関し決定できなかったのは誠に申し訳ないといしか言いようがありませんが、代表理事については事前にお願した結果が現状ということになっており・・・その点ふくめて理解いただけたようでしたら、拍手もしくは画面に向かって○印をもち議案事態につきご承認いただければ幸いです。

島川(お世話役)

皆様の方から何かご意見ございましたら、発言ボタンを押していただけますでしょうか。

ございませんか？

では、ご異議ないようでしたら、拍手もしくは画面に向かって丸印をお願いします。どうもありがとうございます。

皆様とオンラインで繋がった気持ちがいたします。ありがとうございました。

では、議案１は代表理事をどなたにお願いするかについてはちょっと保留ということで、その点も含めこれでご承認いただいたということとし、続けていきたいと思います。

まず、ここに新しく理事になられる岡井さんがいらっしゃっておりますので、岡井さんにご挨拶をいただければと思います。岡井さんお願いします。

岡井(NPO 日光門前まちづくり)

みなさん、こんにちは。日光門前まちづくりの岡井と申します。只今、理事に推挙いただきまして、皆様にもご承認いただきまして、今後精一杯やらせていただければと思っております。

私はと言いますか、私どもの法人はこの団体の設立当初からメンバーとして参加をさせていただいておりまして、ほぼ皆勤で、世界遺産サミットですとか総会その他に参加させていただいております。世界遺産サミットの方では、パネラーとしても各自治体さんにお招きいただきまして、本当に色々な勉強もさせていただきながら参加させていただいて来ました。

このネットワーク、できた当時私は30代前半だったんですけども、14年間いろんな機会を与えていただきまして、有体に申し上げれば、本当に私の成長をさせていただいたなという風に思っております。あと我々地域団体として日光の小さいまちで活動しておりますので、このネットワークを通し全国の世界文化遺産の地域の方々、それから自治体の方々と一緒に情報交換をさせていただく、本当に貴重な機会を与えていただいて来ました。

先ほども申し上げましたように今回理事、それから井戸さんの下で事務局次長ということで、自分に何ができるかというのを今後まずよく考えながら、精一杯お役に立てればと思っております。私、まちづくりとか都市計画も専門にしております、そういった意味でも自分の職業も何かお役に立てることがあればという風に思っております。雑駁ですけども、以上でございます。

島川(お世話役)

岡井さん、どうもありがとうございました。ただいまもう1人、理事の大社さんが本部に到着されました。なんか駆けつけみたいな感じになっちゃって大変申し訳ないんですけど・・・もうなんか息も上がってらっしゃるかもしれませんけども(笑)、ここで大社さんちよつとご挨拶お願いします。

大社 (理事)

はい。皆さんこんにちは。遅れまして申し訳ございません。大社です。

芸術文化観光専門職大学という、兵庫県の豊岡に開学した大学で教員をやっております。専門は観光地経営、デスティネーションマネジメントですね。それから DMO です、まちひとしごと創生会議の委員として、DMO の形成・制度の確立当初にメインでお手伝いをしていました。

今回、地域連携会議の役員ということで、特にお金の問題ですよね。お金が足りない。いかに活動費をね、稼いでいくかと。ここん所を中心に役に立てればなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

お世話役・島川

有難うございました。

では議案2・3につき、井戸さんの方からご説明願います。

井戸(事務局長)

続いて議案2 2023年度の事業報告に入らせていただきます。

PP1 この会は13年前に「世界遺産市町村どうし」また関係する「官民」の交流や情報交換の場
を作ろう」ということで発足いたしました。ですので、会の活動の「あんこ中のあんこ」の部分は、

メンバーや地域間の人材・ノウハウ・情報の交流を活性化させて行く、ということだと思っております。

昨年度の活動としては、まず①メーリングリスト利用が通算1186回になりました。

また昨年度はコロナが収束し、②会の総会、そして③の交流会を久しぶりに東京で実施することができました。

④の世界遺産サミットは、斑鳩町の法隆寺にて10回目の開催となりました。法隆寺の管長さん、JTBの社長さん、高市大臣、議連の鶴保先生、観光庁要人の皆さん、また10名の市町村長さんが参加され、関連行事として世界遺産登録30周年記念の法隆寺特別ライトアップがおこなわれました。

後ほど、斑鳩町の山本教育長からも一言ご報告等いただければと思っております。

以外には⑤。昨年度は18遺産で、各地に出向かせて頂いての打合せなどをおこないました。また、⑥ZOOMでの実務者会議をエリアごと、あるいはテーマごとに5回ほど開催しております。

PP2 国への要望活動につきましても、久しぶりに実施することができました。

「世界遺産を核とした日本インバウンドの再興」「世界遺産特別法の制定」「各遺産別の要望」などにつき、世界遺産議連・世界遺産サミット議連・文化庁・観光庁、また自民党の先生方などに対し提案、あるいは資料配布をおこなってきております。

PP3 各種共同事業推進におきましてはまず、宗像市さんの呼びかけで始まりました「いい遺産の日、11月13日およびその周辺日での「世界遺産一斉清掃」が2年目を迎えました。

昨年度は12遺産・17地域・94団体、合計すると何と3600名もの皆さんにご参加いただきました。世界遺産やその周辺が綺麗になったことは勿論ですが、実施団体どうしの交流が始まったり、あるいは各地域にたくさんいらっしゃる「世界遺産を誇りに思い、何か貢献したい」と思ってこられた市民の方々などの、お気持ちの受け皿ができたということ、大変意義深い取り組みになって来ていると感じております。

写真は縄文の御所野遺跡、日光門前町・・・岡井さんの所ですね。富岡製糸場・・・ここでは世界遺産検定をやっておられる「世界遺産アカデミー」さんとのコラボで「クリーンツーリズム」と称して、観光客によるボランティアツアーを組んでおります。

続きまして、今年も最も多くの参加者があったのは静岡市の三保の松原。

さらには沖ノ島・宗像の構成資産をお持ちの福津市、明治日本と潜伏キリシタンの両方をお持ちの長崎市の様子です。

以外にも熊野古道伊勢路・京都・奈良・石見銀山・潜伏キリシタンの佐世保、明治日本では伊

豆の国・萩・中間・佐賀、琉球王国では首里城にて活動がおこなわれました。

PP3 観光や地域づくり面での共同事業としては、姫路市の提案で始まりました「世界遺産リレー催事」。昨年度は残念ながら「日本博」の予算が終了してしまいましたが、観光庁の「観光再始動事業」「インバウンド地方誘客事業」を何とか獲得できまして、「世界遺産と一番催事」シリーズという形で活動が継続できております。

これまでの10遺産分同様、11言語による新規の動画撮影ができたのは、本日開会前に放映させていただいた「厳島神社・原爆ドームと原爆の日」だけでしたが、これまでの蓄積と合わせまして地理的には北海道から沖縄まで、歴史的には縄文時代から戦後まで、さらには各催事を通して日本の四季についてもアピールできるようなイメージになって来ております。写真は富士山の桜、奈良の夏の夜、白川郷五箇山の秋の一斉放水、冬の姫路城のイルミネーションです。

昨年度は海外へのSNS広告についても5つの遺産につき継続することができました。トップ3は写真右側の上から2番目、「奈良の夏の夜」がフランスで34万視聴、京都の紅葉や二条城イベントがイタリアで25万視聴、厳島神社・原爆ドームがドイツで23万視聴などとなっております。

PP4 同じく観光庁予算で「世界遺産スタンプラリー」についても継続することができました。パンフレットは20種類、設置場所は65箇所でした。写真は平泉、台東区の浅草観光情報センター、堺の百舌鳥古墳群ビジターセンターです。これまでの参加人数は全遺産合計で53万人ほど、最も多かったのは富岡製糸場の3万9千人となっております。

地域づくり面ではこれまでに3つのプロジェクトチームを組み、文化庁予算を活用して各遺産の課題解決や、そのノウハウ共有に取り組んで来ました。

紀伊山地の例、大田市さんに幹事になっていただき実施した石見银山・原爆ドーム・厳島神社・萩・姫路城による「西日本の連携キャンペーン」の例、以外にも斑鳩で各5年間にわたるプロジェクトチームを組み、ともに活動してまいりました。

PP5 昨年度におきましてはノウハウ共有の考え方を少し発展させ、観光庁予算を活用して、多くの遺産や地域に共通しそうなテーマを抽出し、テストイベントのような形で各遺産にて実施して見ました。

まず、テーマ1は「海外の世界遺産との交流」ということです。

先進事例としては厳島神社とモンサンミッシェル、また熊野古道とサンティアゴ・デ・コンポステーラの姉妹提携などがすでにある訳ですが、そうした動きの第3弾になればということで、北

秋田市さんと連携し、「ストーンヘンジと縄文」というシンポジウムを、英国からのゲストを招いて開催しております。

縄文各期の遺跡を時系列的に紹介する動画も英国にて配信し、19万件の視聴を得ております。一昨年実施したの台湾との合計は31万視聴です。

次に、2番目のテーマは「形が見えにくい遺産へのストーリーづけ」ということです。

弘前市の大森勝山遺跡が、冬至に夕陽が岩木山頂に沈む位置に作られ、発見されていることから、雪の中、それを市民や留学生で実体験してみるツアーを実施しました。当時の遺跡の姿が見えにくく、差別化が難しいという課題は縄文遺跡群や潜伏キリシタン、また例えば平泉などでも中尊寺や毛越寺だけでは「理想郷」の姿が十分わからないといったお話にも共通します。また太陽との関係では琉球のグスクほかにも共通するものがいくつかあるように思います。

3番目は「普段、所蔵庫内にある歴史的資源の公開」ということです。

昨年度は二条城にご協力いただき、歴史的な日に使われた装束展示をおこないました。

こうした分野の取り組み、奈良の正倉院展などは別格といたしましても、時期ごとにこうした試みに取り組むこと自体は、多くの遺産でもそう難しくないのではないかと考えております。

PP6 テーマの4番目は「既存催事の組み合わせによる」ブランド形成といったお話です。

すでにある催事を組み合わせる新しいブランドを形成する、というのは「東北四大祭」などはその成功事例と思います。

昨年度は南島原市とコラボし「フェスティビタス・ナタリス」のバージョンアップと、そして「サイレント・クリスマス」としての情報発信に取り組みました。平戸市の「春日の祈り」、天草市の崎津教会です。潜伏キリシタンの場合は何と言いましても、世界中に23億人ものキリスト教関係者がおいでですので、とても大きな意義や可能性が実はあるのではないかと言う風に思っています。

サイレント・クリスマスの動画放映は昨年も韓国で実施し、2年間で22万人の視聴がありました。

昨年度実施しました最後のテーマは「子ども時代から世界遺産運動への参加機会を作っていく」ということです。

昨年度については「首里城復興祭で、子どもミュージカルによる琉球史紹介」を会として応援させていただきました。

このテーマに関連するものとしては以外に、各地に子どもによる世界遺産ガイドチームできたり、七戸では子どもたちによる世界遺産研究パネルが新幹線駅で展示されていたりもします。

昨年度の事業報告は以上でございます。

なお、資料のほうでは参考資料1として、ここまでの期間、各遺産別にどういう事業を実現できたか、をまとめさせていただきました。ご参照いただければと思います。

続きまして(議案3)2023年度の決算報告につきご説明させていただきます。

PP7 表の左から2つ目の欄が2023年度決算の収入の部でございます。

①の市町村長会費収入は146万円。

②の事業収入は観光庁予算によるものと、地域負担金を合わせまして2811万円。これらの収入は後ほどご説明する支出の部では、広報費内の補助金関係との対応になっております。

③の交流会費は同じく支出の部では、会議費内の交流会支出との見合いとなっております。

④の寄付金6万3805円ですが、観光庁予算の場合は概算払いがなく、全て終了後の精算払いということになっております。それと、消費税分は請求できないということになっております。その中で支払先が非課税団体であるといった理由で消費税相当分につき還元いただいたケースが2件ありまして、ここにそれを計上しております。

ということで、以上に、利息と前年度繰越金を合わせまして3333万3767円というのが昨年度の収入合計です。

PP8 続いて支出の部です。左から2つめの欄につき上からご説明しますと、1の要望活動費16万4694円は冊子作成・筆耕・ハイヤー代・郵送に要した費用です。

2の会議費は総会開催関係が40万1961円。会場費・機材費・冊子作成・会議準備や受付・テープ起こしのアルバイト費用です。交流会支出22万960円は収入の部③の交流会収入に対応します。3のイベント費用6千円はサミット関係の雑費です。

4の広報費のうち収入の部②事業収入や④寄付金の見合いとなる支出は1つはここにありまして2974万1176円。収入からのマイナスになっているのは借入金の利息と消費税です。

補助金をもとに実施した事業分の支出につきましては、国に提出した決算書類に金額を揃えるため2つに分けておりまして、ご覧いただいている金額はそれぞれ国に提出した決算額と同じになっております。で、この合計2974万1176円と、11の「税その他」の中に国の決算額からの消費税差額21万3741円を記載しております。これらの合計が昨年度の観光庁補助事業に関する支出となり、差し引きしますと、4の欄外にある156万7371円との合計、178万1112円の持ち出しがあったということになります。

この部分に関してもっといいやり方があるのかも知れませんが、今回の観光庁予算につい

てはそれをとってきて事業を充実させることができたという面では大変有難く意義深かったのだけれども、自己負担分に加え、これまでの文化庁予算は概算払いが可能だったんですけれど全ての決算終了後でないと支払いが受けられないということで、そのための借金をしないといけなかったり、発注や各所への分配に際し消費税がかかって来るということで、私どものような組織にとっては、予算がついたからと言ってそれがそのまま財政改善につながる、とばかり言い切れない面があったなということも感じております。

なお、4に HP、3万8745円とあるのはプロバイダ料です。5の事業推進費の1万1660円は振込手数料。2022年決算との差額は2つのPTの終了に伴うものです。

6の調査研究費は入場料・書籍代・研究会参加費。7の旅費交通費56万4288円が予算額を上回っている理由は、国予算によるもの以外はここに計上しているのは当然ですが、その中に国予算の採択が遅れ、その対象にできる期間そのものがたいへん短かったという点が影響したりもしています。またそもそも国予算からの拠出ができなかったり、ややこしかったりするタクシー代・レンタカー代・ガソリン代もここに計上したことにより、予算額との乖離が出ています。

8通信費6万6540円は主には送料、9消耗品費は事務用品とコピー代、10地代家賃は貸金庫代です。一昨年との差額は貸倉庫を解約したためです。11は税ならびに税理士・登記変更に伴う費用でした。予算額を上回っているのは、先ほど申し上げた国への決算書面との差額21万3741円を消費税負担分としてここに計上したためです。

以上の支出合計は3172万5941円となり、160万7826円を本年度に繰り越すという形になっております。

議案2・3、昨年度事業と決算のご説明は以上です

島川(お世話役)

はい。それでは2023年度事業に関して紹介されました4つの世界遺産から一言ずつ補足説明やご感想をいただければと思います。

まず、前年度の世界遺産サミットの開催地であります、斑鳩町の山本教育長さん、ご発言いただけますでしょうか。

山本(斑鳩町教育長)

本総会にご参加の皆様、こんにちは。斑鳩町教育委員会教育長の山本でございます。

本来でしたら本町の中西町長が出席させていただいて、昨年度のお礼とご報告をさせていただく所でございますけども、他の公務との重なりがございまして、代わりに私の方から、昨年10月28・29日の両日にわたりまして、斑鳩町法隆寺聖徳会館において開催いたしました第10回世界遺産サミットIN斑鳩の報告を簡単にさせていただきます。

昨年は「法隆寺地域の仏教建造物」が平成5年に姫路城とともに国内初の世界遺産に登録されてから30周年という記念すべき年にあたりました。そこで世界遺産サミットを開催させていただき、全国各地から500名を超える多くの皆様方にご来場いただきました。法隆寺さんはじめサミットの開催にご協力いただきました多くの皆様方に改めて御礼申し上げます。有難うございました。

昨年のサミットでは、持続可能な開発目標、SDG'sの達成が求められる中、世界遺産を基軸とした持続可能なまちづくりを考えるために「温故知新 ― 世界遺産の普遍的価値の継承と活用をデザインする持続可能な地域づくり」を全体コンセプトに掲げました。サミット1日目の2つのパネルディスカッション、2日目のJTB山北社長のご講演。また、首長会議では、世界遺産が所在する9自治体の首長様と、この9月9日、2026年の世界文化遺産候補地に決定されました飛鳥・藤原京とその関連資産群で世界遺産登録を目指す明日香村長を含め、10自治体の首長の皆様、世界遺産を活用した各地の取り組みなどについて意見交換をしていただきました。

2023 世界遺産サミットIN斑鳩宣言をサミットの総括として取りまとめ、次の3つのことを宣言させていただきました。1つ、人類共通のかけがいのない財産として、世界遺産を守り、受け継いでいくこと。2つ、世界遺産を有する地域間の連携を深め、持続可能な観光の実現に取り組むこと。3つ、世界遺産を核として、地域の特色を生かしながら、地域との調和の取れた観光振興を図り、持続可能なまちづくりの実現を目指すこと。以上のように改めて、世界遺産の価値と諸課題の共有、確実な継承に向けた保存と活用の一層の推進に向け、相互に連携協力して取り組んでいくことを確認させていただいた次第です。

引き続き、人類共有の宝物である世界遺産の継承と 持続可能な魅力ある地域づくりに取り組んでまいりたいと思っております。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、世界文化遺産地域連携会議のさらなる発展と皆様のご健勝を祈念申し上げまして、サミット開催のご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

島川(お世話役)

山本教育長どうも有難うございました。続きまして、富岡製糸場での「クリーンツーリズム」を主宰し、「世界遺産検定」事務局でもある、世界遺産アカデミー宮澤さん一言お願いできますか？

宮澤(世界遺産アカデミー)

こんにちは、世界遺産アカデミーの宮澤です。先ほど井戸さんの方からのご報告の中で話していただいたんですが、昨年、2023年の11月13日に群馬県と富岡製糸場、あと井戸さんなどの協力のもとで「クリーンツーリズム」のイベントを実施することができました。

さて、この「クリーンツーリズム」のイベントは、世界遺産アカデミーと自治体とが協力し、一緒になって何度かやってきているんですが、1番最初は富士山の三保松原での落ち葉・松葉かきを行いました。そして昨年在富岡製糸場での実施となりました。

今回は16の都道府県から67名の方、1番北は青森県、1番西からは愛媛県の方が富岡製糸場を訪れ参加して下さいました。参加の黄色いTシャツを着た写真が、先ほどあったと思うんですが、黄色いTシャツを着て、清掃活動と、あと講演会をおこなって、今回、世界遺産アカデミーは、先ほど島川さん先生からもご紹介があった「世界遺産検定」というのを主催してまして、その世界遺産について学んでもらうことで今までは終わっていたんですが、その後、それをやっぱり実際の行動に移してってもらいたいなっていう所から、学んだことを実際現地に訪れて体験をする。体験した後それで終わるのではなくて、その保全にも携わるということで、今回この「クリーンツーリズム」というイベントになったという次第です。

富士山でも富岡製糸場でもうまくいきましたので、今年も本当はやりたいと思っていたんですが、実は「ツールド九州」というイベントがあって、そのゴールが宗像大社で、そこにご招待いただくことになり、そこで宗像大社で清掃イベントができないかということで色々福岡県にもご協力いただいて調整したんですが、それができなくて、今年は福岡県と福津市さんのご協力のもとでクイズイベントだけ開催するっていうことになっています。

なので、来年はまたこういった、この「クリーンツーリズム」のイベントを、どこかの世界遺産でやっていきたいなと思っていますので、色々ご相談させていただければと思います。どうもありがとうございます。

島川(お世話役)

はい、宮澤さんどうもありがとうございました。素晴らしい活動と思います。これからも続くといなという風に思います。

続きまして、英国ストーンヘンジとの交流ということで、縄文遺跡郡の北秋田市・榎本さん、一言ご報告いただけますか？

榎本(北秋田市)

ありがとうございます。北秋田市の榎本と申します。今日、市長の代理で参加させていただいてます。北秋田市は縄文遺跡群の中でも伊勢堂体遺跡が位置しております。

先ほどお話にもありましたけれども、昨年度、補助金をいただきまして「ストーンヘンジと縄文」というシンポジウムを開催させていただきました。

おとしから1年間かけて、英国ストーンヘンジのビジターセンターで、縄文文化展が開催されました。その中で私どもも伊勢堂堆石の出土品もいくつかお貸ししたという経緯がございます。それをきっかけとして、縄文文化や伊勢堂岱遺跡とストーンヘンジとの繋がりがもっと強くなれば良いなということで、シンポジウムを開催しました。

基調講演はイギリス人のセインズベリー日本文化研究所のサイモン・ケイナー博士に來日いただき、ストーンヘンジと縄文の、特にストーンサークルとの比較というのをお話いただきました。また、シンポジウムでは元ジュニアボランティアという取り組みをやってるんですけど、その元ボランティアの現在大学生2人に登壇してもらいまして、これからの観光面での活用などにつき話していただきました。

そういったシンポジウムをやったんですけれども、実は世話人の井戸さんの方から前々からですね、伊勢堂岱遺跡というのは大館能代空港や秋田内陸線に隣接しているものすごくアクセスが良い。さらに、北秋田市にはマタギ文化という独特な文化、ちょっと誇張すると縄文に近いようなですね、文化が有名であると。こういったものを合わせることで、売り出せる強みになるんじゃないかというご指摘をいただいてました。

今回の補助金ではそこまではちょっと準備期間もなかったものですからできなかったんですけど、実は今年のまさに昨日一昨日あたりから、(大館能代空港便を持つ)ANAの協力を得て「偏愛ツアー」というものも売り出し始めました。11月に行いますのでぜひそちらも興味があったら参加していただければなと思っております。

いずれにしても、昨年度の観光庁の補助事業というのは我々の今後どう遺跡を考えていくかというきっかけとなった、非常に有意義なものだったと思います。井戸さんをはじめ地域連携会議の皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。どうもありがとうございました。以上です。

島川(お世話役)

はい。榎本さん、どうもありがとうございました。「偏愛ツアー」って言葉がありましたけれども、私も縄文にすごく偏愛のある(笑)メンバーの多田みのりさんたちと一緒に縄文遺跡回り回らせていただいて、それ以来、私も縄文には愛がどんどんどんどん入っていったような、まさに「編

愛」状態になってきました。これからも縄文遺跡群を私も応援していきたいなという風に思っております。

続きまして「サイレント・クリスマス」や「フェスティビタス・ナタリス」について、長崎と天草地方の潜伏キリシタン遺産群・南島原市の末永さん、お願いできますでしょうか？

末永(南島原市)

既存のイベントを活用した取り組みということで、昨年度は、世界遺産地域連携会議のご支援を賜りまして、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の構成資産である原城との関連で、12月2日に長崎県南島原市の冬のイベント「フェスティビタス・ナタリス23」を開催しました。

タイトルの「フェスティビタス」は当時宣教師たちが伝えたラテン語で、お祭り。「ナタリス」はクリスマスを意味します。

南島原市は戦国時代の織田信長の頃からヨーロッパとの交流がありまして、日本で初めてのヨーロッパ派遣団、天正遣欧少年使節は南島原市に日本で初めて置かれた有馬のセミナリオの卒業生たちでした。

キリスト教とともに多くの海外の文化が入り栄えた場所でしたが、幕府の弾圧や島原・天草一揆のため、当時の記録は実はほとんど存在しておりません。しかし、ローマやポルトガルには多くの記録が残されていることから、ヨーロッパに伝えられた記録をもとに430年前の国際交流を体験型で楽しんでいただくことというのがこの「フェスティビタス・ナタリス」です。

井戸さんの支援によりまして、高さ30メートルのクリスマスツリーのイルミネーション、イタリア、イタリアやポルトガルとのライブ中継、南蛮料理や外国人対応 MAP 作成などの新たな取り組みができました。

事務局の井戸さんには南蛮行列にも参加をいただいております。イベントにご支援いただきました地域連携会議と観光庁にはあつくお礼を申し上げます。ありがとうございました。

PP9 監査報告

島川(お世話役)

井戸さん、色んなとこに出没されてますね(笑)。

さて、決算につきましては寺田さんに監事をお願いしていたんですが、寺田さんは本日生憎、どうしても出席できないということでした。宜しくお伝えくださいとのことです。

代わりに井戸さんから・・・。

井戸（事務局長）

幹事の寺田さんと、税理士の先生に内容を見て頂きまして問題なしという風に仰って頂いております。

間際に少しですが変更が生じたため、資料の完成が直前になってしまい大変申し訳なかったのですが、監査結果の書面につきましては本日ご出席の皆さんにはメール、また市町村長さんご出席の箇所には宅ファイル便にてお手元にお送りさせていただいております。

また各市町村、加えて民間メンバーで希望される皆様にも後日郵送させていただきたいと思っておりますのでお知らせ、ご確認をいただければ幸いに考えております。

島川（お世話役）

本日後半の部では先ほどの代表理事の件も含め、皆様からのご意見やアイデアにつきざくばらんに出していただきたいという風に思っていますが、まず「2023年度事業」何かご質問等おありになる方はいらっしゃいますか？

おありになる方はお手元の挙手ボタンを押してご発言いただければと思います。

いかがでしょうか？

ございませんか？

ご異議ないようでしたら、「議案2」「議案3」拍手もしくは画面に向かって○印をもま認いただければ幸いです。

・・・ ありがとうございます。

ご承認いただいたということで、それでは議案4・5・6につき井戸さんから一気にご説明お願いします。

井戸（事務局長）

（議案4－6説明）

PP10 ではまず議案4、本年度の事業計画案につきご説明させていただきます。

1番目の「連携・交流」につきましては、サミット・総会・交流会やMLなどを通し、会の運営や人的交流はもちろん、各地の進んだノウハウの共有に努めていきたいと思います。

サミットにつきましては、今年は残念ながら立候補地域がありませんでした。大きな理由としては、実は今年は登録〇周年の当たり年でありまして、そのうち30周年の京都、25周年の日光、20周年の紀伊山地の霊場と参詣道、10周年の富岡富岡製糸場と絹産業遺産群がすでに1回ずつ開催を経験されているという事情がありました。いずれにせよそうした事情含め、半数の遺産がすでに開催済という点で、この「世界遺産サミット」も一つの転機を迎えているということが言えようかと思います。

そこで観光庁や議連とも相談をしまして、9月27日に東京ビッグサイトで開かれるツーリズムEXPOの場をお借りし、そのイベントの一環で今年度分を実施することになりました。場所はお手元資料から会議棟6Fに変更になっております。主なテーマはインバウンドやオーバーツーリズム対策ということで、短時間ではありますが、市町村長会議には平泉町長さん・日光市長さん・富士吉田市長さん、山中湖村長さん、吉野町長さん、あと佐渡市からもご参加いただけることになっております。なかなかない情報発信の機会です。「うちの市長も行けるようになりました」という所がもしありましたら、今ならまだ間に合いますので、至急ご連絡を頂ければと思います。また、翌日はエクスカーションで、東京都台東区にお世話になり国立西洋美術館。また新宿区若松町の総務省別館にある「産業遺産情報センター」。明治日本の産業革命遺産のガイダンスセンターですね、加えて皇居三の丸の尚蔵館。こうした場所を見学することとなっております。9月27日15:30からが本会議、28日がエクスカーションです。お申込みまだの方も、ぜひ積極的かつお気軽にお申し出下さい。

それと今後の「サミット」についても一言。次年度開催地については実は先日内定しました。が、実は議会や報道発表のご都合があり、この場でもまたサミットの場でも公表できないんという事情になっております。

サミット開催地につきましてはそこまでが内定をしておりますが、2026年以降についてはまだ全く白紙の状態です。絶対に各遺産1回ずつ開いてもらわないといけないとか、またどこかで2回目を開催するのは駄目だとかいうルールもない訳ですけど、特に、まだ開催されておられない遺産におかれましては、是非とも前向きなご検討をお願いできればと思います。

PP11 2の要望活動につきましては、松井市長からも「今のままで本当に効果出るのか？」という問いかけをいただいております。…本年度は実施を見合わせ、1年間をかけて今後の在り方、実施の必要性や継続となった場合の要望内容、また議連への提案 などにつき見直す作業をしたいと考えております。

3の「いい遺産の日」についてはぜひとも継続・発展させて行きたいと考えています。後ほど、宗

像市さんからご提案をいただきます。

似たパターンでは姫路市さんのご提案で始まった「世界遺産リレー催事」とかも同じですが、それぞれの地域の皆さんからアイデアを出していただき、それを全体に呼びかけて行くような作業についてはどんどんやらせていただきますので、世界遺産全体のことで、また似たテーマとか近接している遺産とか、地方圏単位のことなど部分部分でも結構ですので、ぜひご提案いただきたいと考えております。

加えて、4の「世界遺産で辿る日本史」の書籍化についてです。すでに熊倉理事に原案をご執筆いただいております、各地の皆様にも手を入れていただいている段階です。

書籍として販売して行くことに加え、以降の課題にはなりますが、例えば英訳してHP内に残して行くようなことも検討して行きたいと考えております。

後ほど熊倉理事からも一言いただければと思います。

PP12 5につきましては、観光系共同事業の非常に基礎的な部分については、国の予算に左右されず、自主事業として実施できるようにして行きたいということで、昨年度から「市町村共同事業」に関する本年度の予算化を各自治体の皆様にお願ひして参りました。観光振興には地域ごとのニーズの違いもありますし、一部の地域ではむしろオーバーツーリズムが問題になって来たりもしております。そうした面も含め、これまでのように会が何とか全体の予算を獲得して来て、できるだけ各遺産平等に事業展開するという方式にはちょっと先が見えない状態になっております。

本年度から市町村長会の会費は交流を軸とした会の「あんこ」というか根幹をなす事業を維持して行くことに充て、情報発信や観光事業については原則、一定の費用負担に対応いただける地域を中心に回して行かざるを得なくなっております。

ということで、昨年度にはほぼ全ての市町村に、予算計上にトライしていただきまして、本当に有難うございました。実際にうまく今年度から予算がついたのはその3分の1ほどでしたが、ここまでの映像やHPといった資産はそのまま引き継ぎながら、予算がないと維持できないスタンブラー、情報発信部分や、国の観光予算申請の内容については原則として、こうした地域を中心に重点化しやって行く以外に取り敢えず方法がないという点につき、ご理解をお願いしたいと考えております。

PP13 議案5の予算につきましては、残念ながらまだ今年は国関係からの獲得に目途がたつ

ておりません

世界遺産全体のもので3件、また個別の地方圏や広域遺産と組んで3件ほどトライしましたが、結果待ちの1件をのぞき悉く落とされてきております。世界遺産全体として、関係各地域それぞれに応募されたものについては多数採択されるようになったということがあり、大変いい方向なんです……一方で特に世界遺産全体でということになりますと、いずれも文化庁や観光庁が公募しているものとはちょっとサイズが合わないといえますか、要求から外れてしまうといえますか、例えば「牛肉食べたいと言ってるだけなのに、牛一頭もって来た」みたいなお話になって来ておりまして、大変苦戦しているというのが正直な所です。

従いまして、今年度の現時点で確定している予算は市町村会費の146万円、市町村共同事業の350万円にサミット時の交流会費、それに繰越金160万7826円を合わせた676万7826円、これだけです。

PP14 支出の方は会議費が総会開催費30万円と交流会関係が収入見合いで20万円、広報予算がHP50万円とその他で300万円。これが市町村共同事業の見合いとなります。

以下、調査研究5万円、旅費交通費30万円、通信費5万円、貸金庫代24500円、税その他に8万円ということで、支出予算の合計は455万4500円、収入予算との差額221万3326円を次年度に繰り越すという所までとなっております。

以上にもし今後国からの予算が獲得できましたら、昨年度のようにそれに取組んで事業を一定発展させることはできます。それが昨年度のように決算払いということであっても、原則としてお金を借りてでも推進すべきだと思っています。ただし、昨年度がそうであったように、だからといって会の財政がよくなるという訳ではない。そうした点も含め、持続的な会の財政的をどうするのかを真剣に考えて行かないといけない時期と考えています。

PP15 議案6、会の安定的運営に向けての課題についても続けて説明させていただきます。

この会はもともとは「世界遺産を持つ市町村が集まって交流できる場があればいい」ということでスタートしたものです。そうした部分こそが会として最も重要な「あんこ」の部分であることに変わりはないという風に思います。

財政的なことにつき申し上げますと、最低限の事務費をということで市町村長会費が設けられたのが2015年ですから、それまでは実はもっと資金がない中でやって来ました。もともとそういうものと言えばその通りで、2016年までは5百万に満たない年間予算で活動しておりました。振り返ればその中で、2014年には世界遺産サミットが始まり、翌年には要望活動、その次の2016年には何とか今の前の代のHPを制作したりして来ています。

で、2017年からは国の予算が獲得できるようになりました。しかしながら、PT予算は会の財政面だけで言うと、実は国から入った資金のほとんどを右から左に、会として以外の地域のモデ

ルにもなりそうな事柄を中心に、各地に配分してきたという内容です。

2019年から22年までは並行して「日本博」予算がとれたことがあり、世界遺産全体の事業を一定発展させることができました。それがちょっと暗転してしまったのが昨2023年で、何とか観光庁の予算で事業水準自体は維持できたものの、一方では国予算だけに頼っている、基本的な共同事業、HP やスタンプラリーすら維持できないということがはっきりして参りました。

そんな中で、国の支援がなくとも、最低限の観光系事業は維持できるよう、市町村共同事業という枠組が何とか間に合ったというのが本年度です。もちろんこの分野の予算は今年は350万ほどですが、徐々に参加頂く地域を増やし最終的には目標額である1千万に近づけたいと思っておりますので、今年参加される地域はもちろん、参加頂けなかった各地域におかれましても、是非、次年度予算計上へのトライをお願いしたいと考えております。

PP16 さて、業務面で言いますと、こうした交流部分の事務や最低限の広報部分については、もし仮に万々が一、現在のメンバーが事務局を担えなくなっても、出向や兼務等の形でその部分を維持すること自体は難しくないと思っております。

しかしながら、それ以上のことをやったり、人員含めた会としての持続性を確保するためにはやはり一定の資金を獲得して行くことが理想的ですから、そうした意味では外部からの予算獲得につき、本気で取り組んで行くべきタイミングが来ていると考えています。

企業スポンサーやクラウドファンディングなど含め、可能性があることにどんどん取り組んでいかないと、「交流」の場であり続けることは今後もできるでしょうが、それ以上に事業を発展させていくことはちょっと大変だなという状態にあります。

いずれにせよ、できるだけ早期に安定した体制を確保せねばと考えておりますので、皆様からのお知恵、情報、ご紹介はじめとするご協力をお願いしたいと思っております。

例えばですが、今のところ会には都道府県との接点はあまりありません。が、予算を組んで下さる都道府県があれば、全くの素人がおやりになるよりは多分色々いい事業が展開できるかも知れませんので、各地域からもそうした箇所をご紹介いただいたり、またけしかけていただいたりすると有難いです。

せっかくここまでやって来ていることですから、まずはそれをもう少し発展させて行くために、皆様のお知恵、お力をお借りしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

ご説明のほうは以上です。

島川(お世話役)

ではまず、ここで少し補足説明をいただきたいと思います。

世界遺産一斉清掃の中心的役割を担っていただいています宗像市さん、先ほどの事業計画につき補足があれば一言お願いできますでしょうか。

伊豆(宗像市)

お世話になっております。宗像市世界産課の伊豆と言います。私の方から11月13日「いい遺産の日」に向けた取り組みについて説明をさせていただこうと思います。

昨年は全国の12遺産の方から、たくさんの参加をいただきまして、ありがとうございました。その際の昨年度振り返りの会議の中でももう少し事業を拡大できないだろうかとか、もう少し統一感を持った活動ができないだろうかというところでご意見等いただきまして、今年度はですね、さらに活動を広げていくことを目指し、全国一斉清掃限定という形から、もう少し対象を広げまして「いい遺産プロジェクト」という形で事業を実施したいなという風に思っております。

これまでは清掃活動のみを対象にしてたんですけども、清掃活動だけに限らず、構成資産を守り伝えていく活動を対象にした形で事業を展開していきたいなと思っております。

今週の9月9日の月曜日に、連携会議加盟の市区町村の皆様にはメールにて今年度の企画書と、あとはエントリーシートですね、参加意向確認書っていうのを送らせていただいております。また、合わせて昨年度参加いただいた団体にもですね、同じような形でメールで今年度の企画内容でありますとか、そういったものを送っておりますので、ご検討いただいてご回答を10月28日を一応締め切りにしておりますので、ご協力いただければと思っております。

今回対象事業を広げる関係もありまして、これまでは事業の参加ができなかったというところもあるかと思っておりますので、例えば写真展とかですね、また、その各資産地でやってます講演会等もですね、このいい遺産プロジェクトとして該当するような事業になってきますので、今年度はできれば21遺産すべてに近い地域から参加をいただいて、「日本の世界遺産を美しく」というキャッチフレーズがもっともっと広がっていくような形で皆さんと手を繋げることができたらと思っております。どうぞご協力の方お願いいたします。

何かご質問等ありましたら、宗像市の伊豆までご連絡いただければ幸いです。以上、宗像市からのご連絡になります。どうぞよろしくお願いいたします。

井戸(事務局長)

伊豆さん、シンボルマークの発表はないの？(笑)

伊豆(宗像市)

すいません。シンボルマークというか、統一ロゴですね、今年度作りましたので、すいません。
直前になって、9月9日に送って11月の活動に使ってっていうのはなかなか難しいかと思いますが、マーク色々、縦バージョン、横バージョンも作っておりますので、各地の事業の中、ポスターであるとか、告知文書の中で使っていただいて、このマークを見れば「いい遺産プロジェクト」をやってる団体・活動なんだってな、ということがわかるような形で全国に広がっていくことを願っております。

島川(お世話役)

「世界遺産で辿る日本史」の出版つき、富岡の熊倉理事、一言補足いただければ有難く思います。

熊倉(高崎商科大学)

10年以上前に、世界文化遺産を通して日本の歴史が語れるのではないかとということで公式サイト上に簡単なものを執筆させていただいたんですけれども、ある出版社が協力をしてくれることになりまして、全体として本にしようということになりました。

で、何とか進めて行きたいということで、今、各遺産の部分についてはそれぞれの現地の普遍的価値につながる登録の基準を何を選んでらっしゃるのか、それぞれがどんな構成資産から成り立っているのか、それぞれの光が当たっている部分だけではなくて、全ての年代にわたってそれぞれの遺産がどのように活用されたり今に繋がっているか、例えば生きた信仰とどうつながっているのかということを一応書かせていただき、皆さんに今チェックを受けている段階です。

最後のところで、本当に日本という文化的空間が世界遺産が全体理解できるよと。それは、海外から来る方だけではなくて、私たち自身がもう一度日本という空間を見直してみようという投げかけになればいいかなと。また、それを使っていただくことで、多少、会の運営にお金として戻ってくればありがたいなと、そこまで行くかどうかは分かりませんが努力をしますので、皆さんのご協力とご支援をいただきたいと思います。以上です。

島川(お世話役)

沖縄での「サミット」の際、先生がこの件につき講演をされ、私も感銘を受けておりました。
熊倉先生有難うございます。

それではまず議案4－6について一旦皆様のご承認を頂いてから、フリーディスカッションに移りたいと思います。「議案4－6」、まずはいったんご承認いただけますか？

何かご質問等おありになる方はいらっしゃる場合は、お手元の挙手ボタンを押してご発言いただければと思います。

いかがでしょうか？

ご異存ないようでしたら、「議案4－6」拍手もしくは画面に向かって○印をもちいったん承認いただければ幸いです・・・ありがとうございました。

ここまでで本日の議題1－6はいずれも承認いただきましたので、ここからはこれらに直接関係のないことも含めて、皆様からのご意見や情報を出していただきたいと思います。

挙手ボタンをお願いします。いかがですか？

・・・では、最初に何名かご指名させていただきますね。

まず、佐渡に次いで新しい登録となります縄文遺産群から、つがる市長の倉光さん。地元でのお取り組み、あるいは縄文遺産群全体のこと、またこの間の会の活動、代表理事や財政面の課題などにつき一言口火を切っていただけると有難いです。

倉光(つがる市長)

どうもお疲れ様です。つがる市の倉光です。まず代表理事の件なんですけど、ここはやはり松井京都市長さんにやっていただুকはないと思っております。日本を代表する古都・京都ですので、で・・・お忙しいんでしょうけど、ここは一つ引き受けてほしいなと思っております。

当市の世界遺産を受けてからの状況ですけども、北海道・北東北で17かな？ 構成資産があるんですけど、そのうち2つが当つがる市にあります。登録から3年経ちましたけど、来訪者は右肩上がりで増えているというような状況であります。今まであった展示資料館なんですけども、これも昨年4月にリニューアルオープンさせ対応してます。何はともあれ、現地でボランティアガイドさんが平日ふくめ毎日協力していただいているということで、そういう地道で熱心な対応が増加に繋がっているんだろうと思っています。

今私どもが取り組んでいるのは現地の整備です。史跡整備基本計画計画が今年の3月に策定できましたので、これに従って令和8年度から現状の整備に着工したいということであります。そしてその3年後には現地の外出する施設も着工をしてというような計画でありますけども、そう

いろいろな現地の来訪してくださる方を完璧にお出迎えできるような設備を整えば、この「亀ヶ岡石器時代遺跡」の風景というか見方も一変するんだろーと思っています。これが今私どもが置かれている状況であります。

重ねてお礼申し上げますけど、松井さんにはぜひとも お引き受けてほしいと思っているところであります。以上であります。

島川（お世話役）

ありがとうございます。続いて宗像から「いい遺産の日」の報告がありましたが、同じく世界遺産を構成されている福津市さん、補足やこの間のお取り組みのご紹介、また会の活動と課題に関し何かご発言ありませんか？

池ノ上（福津市）

宗像市と一緒に清掃系の取り組みを色々やってます。

先ほどの、マイナビの「世界遺産検定」のお話ではうちの会場で講演会もします。

また、古墳の周りには花を、去年と同じように花を植えて環境整備をやろうというのを取り組んでいます。

島川（お世話役）

活動面では「世界遺産サミット」や「要望活動」をこれからどうして行くか、あとは積年の課題である財政面での問題ですね。

これらにつき何かご発言ありませんでしょうか？

では・・・財政はじめ会の運営につき、須藤さんから一言いただければ。

須藤（元・日本航空）

唐突なんですけれども、ちょっとお話をさせていただいてもよろしいでしょうか。

まず第1点はですね、京都の松井市長が代表理事を保留されてるという件を伺ってとても残念で、ぜひ就任していただきたいと思ってるんですけど、1つのアイデアとして京都市長以外に

いくつかの中心的な所がですね、公務が忙しいでしょうから数市で1年単位で回すとかですね、こういったようなことをすることによって、そのおもだった首長さんがですね、この世界遺産地域連携会議に対して深く関わり合いを持つとともに、発信をできるような形でご協力をいただくっていうのは1つのアイデアじゃないかという風に思いましたので、提案させていただきます。

もう1点はですね、松井市長もおっしゃられたように、この世界遺産地域連携会議そのものですね、組織的に持続あるものにして強化していくっていう意味での組織体制ですね。今日先ほどからご挨拶がありましたように、岡井さんが事務局次長を就任していただいたり、大社さんが財政強化担当になったりされてるんですけど、そういう形で組織が強化されたことについては非常にいいことだと思ってます。

加えて必要なのは、やはり世界遺産地域連携会議そのものに対する世の中での認識をもっと強化するという意味でのPR的なことですね。あらゆる場を使って周知徹底を図って、日本は欧米とは違って、寄付文化がそんなに盛んじゃないんですけど、そういうようなことで井戸さんにもクラウドファンディングだとかいろんな財政強化策をご検討いただいているようですけど、そういうのも含め、積極的にこの連携会議そのものの活動をですね、会員の方とか自治体だけでなく世間一般にですね、もっと周知していくような何か施策っていう活動を、ぜひ事務局中心に考えていただきたいですね。

それから、この今回は財政強化の中で課題が色々あると思いますけど、個別にメール審議でもいいのでタイムリーに皆さんに進捗状況なんかをお知らせして、1つ1つ年内に解決していくっていうようなことで活気ある組織運営体制を期待したいという風に思ってます。簡単ですけど、私の意見です。どうぞよろしくお願いします。

島川(お世話役)

須藤さん、どうもいつもご指導ありがとうございます。須藤さんにはいつもアドバイスをいただいています。温かく見守っていただきましてありがとうございます。

それでは続きまして「世界遺産特別法」を提唱いただいて来た京都府大の宗田先生、何か一言いただけますでしょうか？

宗田(京都府大名誉教授)

はい、突然のご指名ありがとうございます。うかがってまして今、京都でもご存知の通り、オーパーツーリズムが問題になってるっていうことがあるんですが、今日も実は午前中市役所に行って色々お話をしてたんですが、もうちょっと世界遺産の持つ意味というのを考えていくとですね、色々課題がある中で世界遺産でなければ解けないようなもの、例えば京都では多くのイン

バウンドの方たちにマナーをどう向上してもらうかっていうことから始まって、日本人の文化遺産あるいは自然遺産にどう対峙していくかっていう気持ちのありよう、そういうことを体験してもらって、失礼な言い方かもしれませんが「啓発」に繋がるような、それが世界遺産だからこそできる、世界遺産あるいは文化遺産に対するリスペクトの気持ち、自然に対する尊敬の気持ちをどう持つかっていうような、そういうプログラムっていうのが今後必要になってくるんじゃないかと思いました。

これ、京都市の松井市長もそういうお考えがありますし、インバウンドの方にただこう行儀良くなってもらう、マナーを守ってもらうってだけではなくて、もっと深いところでそのユネスコの世界遺産の本来の意味である「心の中に平和の砦を築く」っていうような活動に対してどう貢献できるか。例えば今日話が出た「クリーンツーリズム」もそうですが、いろんなところで言われるように、日本のマナーとか日本の文化遺産に対する態度っていうのは東アジアの中でも極めて高いですし、欧米から学んだ部分が多々あるとはいうものの、欧米の国でも多民族国家が浸透してくる中で、それに文化遺産がどう向き合っていくかってことが大きな課題になってます。

そういうグローバル化した日本の観光の状況の中で、世界遺産が本来グローバルな OUV (Outstanding Universal Value = 顕著な普遍的価値) をどう共有するかっていうような議論ができるようになってくるといいんだろうなと思うんです。

もちろんその保護を国に訴えてですね、世界遺産を連携するってことで始まった会議なんですけど、新しいフェーズに入ったこともありますのでその課題、そして本来のユネスコ世界遺産条約あるいはユネスコ憲章に書いてあるような精神をどう普及するかっていう取り組みに進めるべき時期に来たということだと思います。京都は世界遺産登録30周年ですが、この30年の間に世界遺産を取り巻く状況が大きく変わったっていうことをお考えいただく機会になればと思っています。

島川(お世話役)

どうもありがとうございます。宗田先生、今日、私京都に参りましたけれどもやっぱり「もう本当にフェーズが変わったな」っていうのを実感いたしました。オーバーツーリズムっていうのも、もう本当に対岸の火事のようなお話じゃなくて、自分自身の課題として全遺産が考えていく時期に入ったんじゃないのかなという気がしました。

宗田(京都府大名誉教授)

ちょっと補足しておきますと今年3月に京都市の主要宿泊施設の宿泊客割合、インバウンドが50パーセント超えたんですよ。これフィレンツェとかベネチア、あとはたまにパリでしか出ない数字なんです。それがね、6月に60パーセントを超えた。

この間の景観政策や観光政策などの成功があったから国内では今の所、京都が一番集まっている訳ですけど、次のフェーズとしてはこれがどう全国に広がって行くか。

日本人の方にとっても京都その他は外国に見えてしまうような感じになり始めてる。だからこそ、オーバーツーリズムの議論の一方で、国際化とはそういうもんなんだといった捉え方も大事になって来てると思いますね。

島川(お世話役)

うちの妻なんかも「京都はもう行けない場所になっちゃったね」と言うんですよ。

宗田(京都府大名誉教授)

イタリアとかフランス人も30年前には同じようなことを言ってたんですよ。

それをね、否定的に捉えるんじゃなくて、だからこそベネチアが世界遺産なんで。

世界の人たちと交流して、世界人類共通の遺産ってことで、平和に向けた砦を築くっていうような活動にもなれるんですよ。

京都に限らず、世界遺産が日本人だけのものであっていいはずがないわけですから。

島川(お世話役)

ですよ。確かにね。そうですね。やはりやっぱり考え方自体を見直していかなきゃいけないなという、そういう時期に来たんだなという風に思います。

素晴らしいご指摘、どうもありがとうございます。

実は2時半きっかりに終わらないといけないようですので、残り10分を切ってしまいました。

本日議題にならなかった以外のことも結構です。ぜひ発言をしたいという方いらっしゃいましたら発言していただければと思います。いかがですか？

各遺産の皆様からも何かご意見・ご質問・情報提供などあればお願いいたします。

・・・ではご指名させていただきますね。30周年の京都で「ワン・キョウト」イベントをやってらっしゃるネイキッド久保さん

久保哲矢(ネイキッド)

はい。少しだけ発言させていただきます。皆様、初めましての方もお久しぶりの方もいらっしゃいますけれども、ネイキッドの久保と申します。よろしくお願いいたします。弊社は国内外の様々なイベントとかプロジェクトを行っていたりとかする会社でございますけれども、現在は京都市さんと一緒に連携して、世界遺産を含む京都市のユニークベニューの活用ですとかナイトタイムツーリズムの造成、デジタルアートを活用したイベントなどを幅広く実施させていただいております。本会議につきましては、二条城さんとの関わりからですね。沖縄での「世界遺産サミット」の時にも参加をさせていただいております。その後、様々なサミットも参加させていただいておりますし、井戸さんも色々意見交換をさせていただいてるという所でございます。

私、プロデューサーっていう立ち位置から感じているところでございますけれども、集まっていっぱいの方の多くは知識や情報の共有ですとかそういったところがメインとなってらっしゃる方だと思うんですけれども、「文化観光」という観点から見ればこの会、非常に重要な会であるというか、そういうテーマの核となる存在になり得る組織じゃないかと思っています。

ただ、現時点のことを言うと、おそらく財政が厳しいということは、日本の中で多くの人がそう思っただけを活かそうという段階には至ってない現状だと思うんです。

けれども、繰り返しますが、非常に重要なものになりうる会だなのというのは思っております。

で、それぞれの世界遺産やそれを所管する市町村が発展したり、人材が成長するってことは元より、それを束ねる存在である事務局がいかにして大きくと言いますか、安定して盤石になっていくかどうか、ここをやっぱり各地域や参加されてる民間の方々でもっともっとう、何ができるんだらうかっていうことを実際行動に起こして支えていくっていうことが非常に重要なんじゃないかなと思っているんですね。

財政面に関して言うと、もっともって民間の力も活用すべきじゃないかなと感じておりまして、まだうまくいってないのに何を言ってるんだっていうところもありますけれども、私としてもこう例えば CSR(Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任)の観点から、世界遺産、地域遺産、地域の文化に対して何か手を一緒に何かしらサポートしたいと思ってらっしゃる大きな会社さんもたくさんあります。もしくは、その他の観点でも、観光の観点、文化の観点でこの会を支えてあげたいという人たちを探すパートナー作りっていうのは、もっともっていろんな方からの発信でできるんじゃないかなと思ってますので、なんかそういったことを通じて事務局をバックアップしていくっていう、そういう体制、一枚岩になってそれぞれを活動できると財政面っていうことに関しては本当にもう急がないと運営できなくなってしまう所でございますので、そういう支え方

を私としてはしていければなと思っているところでございます。すいません、ちょっとまとまりのない話ですけども。はい、以上でございます。

島川（お世話役）

久保さん、どうもありがとうございます。本当に民間の力、私たちも本当に力不足でなかなかうまくいかないことばかりですが、さらにやっぱりそういう支援したいという方々を見つけていきたいという風に思っております。ご指摘どうもありがとうございます。

もうお一方ぐらい行けますかね。田辺市熊野ツーリズムビューローの多田さん、ご発言いただけますか。

多田稔子（田辺市熊野ツーリズムビューロー）

はい、多田でございます。よろしくお願いします。紀伊山地の霊場と参詣道は今年20周年ということで、和歌山県、奈良県、三重県ともに様々なイベント等が開催されているところです。

田辺市では、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラーとの巡礼道との共同プロモーション、共通巡礼というのを軸に展開しておりまして、今年その共通巡礼が始まりまして10年です。登録10周年を記念して始めました。今までですね、両方の道を歩いたという方が7300名ぐらいになってます。サンティアゴは100キロ以上歩かなければなりませんし、熊野古道も40キロぐらい山道を歩くという、こんなニッチなものでも世界中から本当にたくさんの方が来ていただいてまして、今までのデータを見ると68か国ぐらいの方が両方の巡礼を達成されてるんですね。

日本の観光というか、その魅力っていうのはまさにさっき出た「文化観光」だと思うんですね。もう本当に食も含めて「文化観光」に尽きるのではないかなと。

そういった時に、この世界文化遺産というのは大きな核になっていると思います。JNTOも数から質へとは言っているもののですね、2030年までに6000万人というような数字も出てきております。今が3000万人ですので倍ですよ。どんどん世界中からこの日本の文化に対して興味を持って訪日してくれるということに対して、我々ももう少しこの受け皿、受け地の整備を急がなければいけない時期なんじゃないかなと。

京都市さんなんかはすでにオーバーツーリズムで大変だと思いますけれど、日本中がそんな風になる可能性もあるのであって、その辺をもう少しみんなでこの世界文化遺産の連携で研究していけたらいいのになと、そんな風に思います。

島川（お世話役）（閉会）

多田さん、どうもありがとうございます。いよいよお話が盛り上がってきた所で、また本当にもっともっと皆さんからお話をいただきたいんですけど、もう14時30分になってしまいました。

本当に皆さんからの温かいお言葉、そして、こういう会が結構大変な状況になっておりますけれども、我々事務局も一生懸命頑張っていきたいと思います。

連携すればできること、連携しないとできないことというのは多くあると思います。ですから、ここまでやってきたからこそ、この会は続けていきたいという風に思っております。これからも皆さんのご支援が必要です。

どうかよろしくお願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。

(14:30 閉会)